

あなたも疑う？ 精神医療・看護現場における〈ことば〉懷疑／会議

○近田 真美子¹⁾、西村 高宏²⁾

1) 大阪成蹊大学 看護学部、2) 大阪大学大学院 人文学研究科

医療・看護の現場は、「尊厳」や「その人らしさ」など、あらためて問うこともないほど自明のことと見なされ、共有されているかのような〈ことば〉に溢れています。しかしながら、あらためて、それらの〈ことば〉を自身でどう捉えているかと問われると、個々の医療者のなかで、その〈ことば〉に込められている意味内容が思いのほかバラバラであることに驚かされます。

たとえば、精神医療・看護の現場でよく用いられる「回復(リカバリー)」という〈ことば〉ひとつとってみても、それが「疾病の回復」だけではなく「人生の回復」という意味も含み込んだ広範な〈ことば〉として用いられている場合があります。とはいえ、そもそもその「人生の回復」とは何で、またその〈ことば〉をわたしたちはどのような意味を込めて用いているのでしょうか。それは、臨床でよく登場する「社会復帰」とどう関係があるのか。このような問いかけをあらためて投げかけられると、専門職者として(あるいは専門職者だからこそ)その問いこたえるのは思いのほか困難な作業になってきます。

精神症状のひとつとされる「妄想」という〈ことば〉についても、それが医学モデルの枠組みでは収まらない、その人なりの信念や希望と幅広く捉えようとすることもあります。他にも「共感と傾聴」など、自明のものとして使い古されてきた数々の〈ことば〉たちにも、それを用いる人それぞれに異なる意味が込められていると言えます。こうした疑問は、臨床において度々浮上するものの、それらについて専門職者どうして深く吟味する場と機会は極めて少ないのではないのでしょうか。

そこで、今回は、これまで臨床の現場で馴染みのあるものとしてあらためて問われることなく留め置かれてきた様々な〈ことば〉をあらためて問い直し(懷疑)、哲学対話という手法を頼りに、参加者どうしてその本来的な意味をともに吟味してみた

いと思います。題して、「あなたも疑う？ 精神医療・看護現場における〈ことば〉懷疑(会議)」です。

WS企画者は、これまで15年にわたり、あらゆる事象を遡行的に問い直す営みとも言える「哲学対話」という手法をもとに対話の場を拓いてきました。今回、本WSにおいて〈ことば〉をともに点検することで、精神医療・看護現場における哲学対話の可能性についても示唆を得られれば幸いです。

[スケジュール]

1. 趣旨説明
2. ファシリテーターのもと、参加者全体で意見を出し合う

精神医療・看護現場において問い直しが必要だと思う〈ことば〉を出し合い、それぞれ、どのような繋がりがあるのか参加者全員で考える。そして、哲学対話の方法を活用しながら、いくつかの〈ことば〉について遡行的に問う時間を設ける。

[倫理的配慮]

参加者の個人情報や発言内容は、ワークショップ内だけで扱い、外部に漏らさないことを最初に確約する。また、参加者が安心して発言できるよう、ファシリテーターが参加者全員に配慮しながら進行する。本WSは、科研費「各医療領域及びケア現場の特性に合わせた実践的な哲学対話モデルの構築に関する研究」(25K03548)の助成を受けて行うが、WSでの発言内容を参考にさせていただくのみであり、個人が特定されるようなデータ収集は一切行わない。その旨、WS開始前に参加者へ説明し了承を得る。開示すべきCOIは無い。